

みしま



誰のために
住宅が必要だと
思いますか？

11月28日、「住まいについて語る集い」が行われました。住宅が必要な人は？どんな住宅が良いか？ 思いを巡らせました。

2012
12
December
広報みしま No.237

- 3 特集
この町に住みたい。
住み続けたいから。
- 12 TownNews7
大石田オーナー制収穫祭
宮下そばと豆腐の会収穫祭
町観光協会田舎体験ツアー
首都圏三島会 第36回総会
ひまわり会弁当宅配
「天地明察」山びこで上映
IORI 倶楽部「板倉づくり」勉強会
- 14 ズームイン6
町民記者の地元密着通信
滝谷和楽塾
高清水・小山健康を守る会
早戸の虫供養
防犯診断
宮下の小径 健康ウォーク
宮下の竹筒「かぐや姫」
- 16 三島町文化祭
- 17 県立宮下病院から
看護師のつぶやき
保健・子育て・健康づくり
スケジュール
- 18 クローズアップクラブ
No.5 三島剣友会
民話
第21話 大黒様の話
- 19 第1回桐の里じねーんと
ラリーピンポン大会
キンさん、トメさん
二人合わせて200歳
ゆめぼけっくにクリスマスツリー
- 20 12月の納税
ご寄附
町の人口と世帯
会津坂下警察署からのお知らせ
ほか
- 21 これからの予定
食品の放射能測定結果 ほか
- 22 県立宮下病院等後援会
要望活動
- 23 一歩一歩地区づくり
File 6 早戸地区
- 24 三島中バレーボール部
県大会3位の快挙



グッドデザイン賞受賞を二瓶隆司町長に報告した宮下・荒屋敷まちづくり委員会の佐久間宗一委員長（右）と会津大学の柴崎恭秀准教授（左）。使用が許可された「Gマーク」が表示された表彰状とプレートを手し、今後の地域づくりに向けて気持ちを新たにしたい

宮下・荒屋敷地区 屋号看板

グッドデザイン賞

GOOD DESIGN AWARD 2012

グッドデザイン賞は日本デザイン振興会が数々の優れたデザインに与えている賞で、一般に広く知られています。宮下・荒屋敷地区の屋号看板は、「公共領域のためのメディア部門」で受賞しました。宮下・荒屋敷まちづくり委員会の佐久間宗一委員長と、デザインした会津大学短期大学部の柴崎恭秀准教授が11月27日に役場を訪れ、二瓶隆司町長に報告しました。

同地区は昭和17年の大火後、一斉に住宅や店舗が建てられた歴史があり、切妻・真壁などが特徴の木造の家並みが残っています。屋号看板のほか、小径の道しるべも設置し、町なかを歩いても楽しめるよう工夫しています。

グッドデザイン賞は日本デザイン振興会が数々の優れた屋号の調査により、忘れ去られていたその地の記憶を呼び戻し、それをきっかけに地域づくりが広がっている」と評価されました。柴崎准教授は「屋号は蔵に残っていたものなどを参考にデザインしました。グッドデザインに選ばれたことで、この地区が元祖となり、周りの見る目も変わります。そして一番大事なのは、この取り組みを通じて住民の皆さんの誇りを感じていただくことです」と思いを語りました。佐久間委員長は「受賞に恥じないよう、途絶えることなく町並みを伝えていきたいです」と誓いを新たにしました。



宮下・荒屋敷地区の39軒に取り付けられている木製の屋号看板。50cm角の正方形で、黒地に白で屋号が書かれている。通りを歩く人の目に入る位置に取り付けられ、木造建築の家並みの風情を演出している

特集

この町に住みたい。 住み続けたいから。

ここに住むということを考えることは、人生を考えることでもあります。ここで育ち、学校に行き、仕事をし、子を育て、生きがいを持って暮らし、一生を終えるまで、この町に住むために、考えます。住まいについて。

「三島に住みたい。住み続けたい。でも…」

町営住宅の現状

住宅に困っている方々の要望に応えるのが町営住宅。しかし老朽化や施設の不備、単身者用と世帯用の間取りや戸数など、さまざまな課題があります。これからの住宅を考える上で、まず町営住宅の現状をお伝えします。



一つの行政区となっている中平住宅。2棟24戸はすべて世帯用の間取りだが、入居希望の状況により、単身者にも貸し出している



(上) 町営住宅の中で最も新しい宮下居平住宅。木造建築の特徴を生かして建てられ、世帯用2戸、単身者用4戸がある



(中) 旧JR社宅を利用した中田住宅。世帯用6戸がある

(下) 最も古い上ノ原住宅。老朽化のため新たな入居は募集せず、今後の整備が検討されている

町営住宅の整備状況

平成24年12月1日現在

住宅名	構造	建設年	間取り	戸数	入居世帯数	空室数
中平住宅 1号棟	非木造 3階建て	平成1年	6畳2間、4畳半1間 台所、浴室、洗面所、トイレ	12	12	0
中平住宅 2号棟	非木造 3階建て	平成2年	6畳2間、4畳半1間 台所、浴室、洗面所、トイレ	12	10	2
中田住宅	非木造 3階建て	昭和63年 (旧JR社宅)	6畳1間、4畳半1間、3畳1間 台所、浴室、トイレ	6	6	0
宮下居平住宅 1号棟	木造 2階建て	平成11年	6畳3間 台所、浴室、洗面所、トイレ	2	2	0
宮下居平住宅 2号棟	木造 平屋建て	平成13年	6畳2間 台所、浴室、洗面所、トイレ	2	2	0
宮下居平住宅 3号棟	木造 平屋建て	平成15年	6畳2間 台所、浴室、洗面所、トイレ	2	2	0
上ノ原住宅	非木造 平屋建て	昭和43年	6畳1間、4畳半1間、3畳1間 台所、浴室、トイレ	9	8	1
		昭和44年	6畳1間、4畳半1間 台所、浴室、トイレ	9	6	3
米子沢住宅	木造 平屋建て	昭和50年 (旧営林署支所)	6畳2間、8畳1間 台所、浴室、トイレ	1	1	0
合計				55	49	6

※上ノ原団地は老朽化のため新たな入居を募集していません。

高い入居率 単身者用が不足

当町には世帯用、単身者用合わせて55戸の町営住宅があります。老朽化により新たな入居を募集していない上ノ原住宅を除き、入居率は常に95%以上となっており、部屋が空くとすぐに申し込みがある状況が続いています。

世帯用と単身者用の間取りが、実際の希望に合わないことが課題の一つです。例えば中平住宅と中田住宅はすべて世帯用ですが、単身者の申し込みしかない場合には入居を許可することもあります。逆に世帯用の希望があったときに、空きがないという状況が生じることもあります。いずれにしても、入居希望に十分応えることができていないのが現状です。住宅がないために町外から三島町に通勤している単身者も少なくありません。現状では単身者用住宅が不足していると見られます。

住宅環境については、年

数の経過による老朽化のほか、湿気による結露、カビなど施設の課題があります。また教員宿舎は一般入居用ではありませんが、教職員の入居が少ないため、町職員住宅としても使用しています。

宅地がなく 新築が難しい

当町には宅地分譲地がないため、新たな土地に家を新築したいという希望に応えることができません。土地の購入については個人との交渉になり、一般に情報もないので難しいのが現状です。

このように、当町には住まいを巡る多くの課題があります。新たな町営住宅の建設を考える場合、単身者用あるいは世帯用、集合住宅あるいは戸建住宅、そして用地選定、建設費用など多くの事項を検討することになります。また宅地造成についても、用地や規模の検討、需要調査などが必要となります。

空き家に住む。空き家を使う。

空き家活用事例



貸家ではなく売却物件を希望していた岩渕良太さん、美稚子さん。移住して4年目、大登の空き家に住むことが決まり、自分の家としての定住を喜ぶ。破損箇所や痛んだ部分があったため、町の補助採択を受けて改修を行った

首都圏から移住して田舎暮らし

岩渕良太さん、美稚子さん（大登）

首都圏から当町に移住して4年目になる岩渕良太さん、美稚子さんご夫婦。これまで空き家を借りて住んでいましたが、売却の意向があった別の空き家を購入しました。「自分の家を持ててうれしいです。日当たりも良く、目の前には桐畑が広がっていて、春はきれいでしょね」と笑顔を見せます。三島町や奥会津の暮らしを、もっと多くの人に知ってほしいと願う二人。仕事は地元企業で、林業や建築、農業などを担っています。

「同世代の人がもっと増えて、一緒に楽しむことができればうれしいです」

親しみのある街角の憩いの場

観光交流館からんころん（宮下）

町では昨年、町所有の空き家を改修し、「観光交流館からんころん」としてオープンしました。町の中心部にあるこの建物は昔から「山三」と屋号と呼ばれ、過去にはさまざまなかたちで使われてきました。好立地にあることから町づくりのための活用が望まれ、町が改修を実施しました。外観は宮下地区に多い切妻、真壁の造りを残し、屋内も木材を使用して温かみのある空間となっています。観光客はもちろん、地元でも気軽な休憩所として親しまれています。

📍観光交流館からんころん（町観光協会）

☎ 0241（48）5000



町観光協会を指定管理者として昨年4月にオープンした「観光交流館からんころん」。観光案内やお土産販売のほか、土日は手打ちそばとカフェを週替わりで営業する。田舎体験ツアーなども企画し、観光振興の拠点を担う

空き家・住宅 改修費等助成金

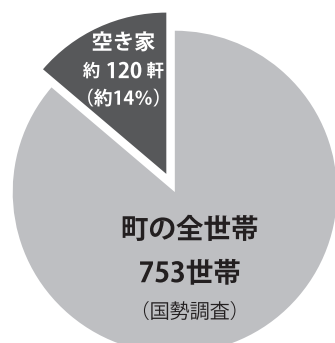
町では空き家・住宅の改修費または空き家の解体費を助成します。各種条件がありますので、まずは地域政策課にご相談ください。

【助成の額】
対象経費の3分の2以内の額（上限100万円）

④審査により採否を決めますので、必ず工事を始める前に申請してください。

【申請先】

役場 地域政策課
☎（48）5533



町内の
空き家の割合
約14%

📍役場 地域政策課
☎（48）5533



町内の各地区では、空き家の放置による集落の荒廃が心配されている

空き家に明かりを

町内には100軒以上の空き家があり、その数は今後も増える予想されます。空き家が放置され、集落が荒廃することが心配されます。

心情的にも元気をなくしてしまいますし、防災、防犯上の危険性も増します。住環境を考える上で、空き家の解消や活用は緊急の課題です。

町内の1割以上が空き家 放置され、つづれる恐れも

町内の空き家は約120軒を数え、その割合は全体の1割以上を占めています。その中には所有者の方が定期的に帰省し、維持管理されている空き家もある一方で、放置され荒廃している空き家も多く見られます。

人が住まなくなった家は痛むのが早く、放置され続けると倒壊の危険もあります。町内では「高齢化が進み、一人暮らしも多く、自分の家の管理だけで精いっぱい。空き家は所有者に何とかしてもらわないと、村が荒廃してしまう」と不安の声が聞かれます。

町では空き家の改修または解体費用の助成制度を今年10

月に開始しました。少しでも多くの空き家をなくす、または使われることを目的とした助成制度です。しかし自己負担も伴うため、それぞれの事情の中で、すべての空き家を解消するのは簡単ではありません。

壊すか、使うか 朽ちてしまう前に

後継者のいない空き家がそのまま放置され、権利関係が不明確になってしまうと、その処理がさらに難しくなります。所有者の方には、空き家をどうするのか、早くに判断するようお願いします。お金がかかる問題ですが、必要な対処については町も相談に応じます。

利用する見込みのない空き家は解体し、その後の土地利用についても決めることが必要です。また売却や賃貸などにより、空き家を有効に活用できれば、定住や地域活動の進展につながります。

町内では来訪者との交流を活性化しようと取り組んでいる地区があります。印象を悪くする空き家は、地区づくりの上でも大きな問題です。

所有者の責任とはいえ、一緒に考えてくださる周りの方々の存在が手助けとなります。隣近所の皆さんには、できる範囲で空き家の解消についてご協力いただき、何らかの情報があれば役場にお知らせください。

2011 年 3 月竣工
木造 2 階建て、延床面積 133.64m²
☎ 080 (1668) 9643
E-mail : iori@sakuma-k.co.jp
〒 969-7406
大沼郡三島町大字早戸字湯ノ平 687

い お り
IORI 倶楽部

小さくても素材が生かされた木組みのしっかりとした住まいを提供し、ご家族の生活を地域総ぐるみで応援していく。従来の住宅産業とは一線を画した家づくりを目指す。代表は佐久間建設工業(株)の佐久間源一郎代表取締役。会津地域の建設業者、工務店、設備業者、設計業者、林業者、木材業者、製材業者などでグループを構成する



只見川のほとりに建つモデルハウス「つるの IORI」。在来工法に新しいデザインを組み合わせ、開放的な住空間に木のぬくもりがあふれる。ウッドデッキからは美しいロケーションが広がる。フローリング材には桐、栗、クルミ、赤松を使い、窓には木製サッシを使用。樹齢 70 年の杉を使用した太鼓梁が構造を力強く支える。若者から団塊世代まで、希望や予算に合わせて設計する

地元の木材で、地元の職人が、すべて料理
奥会津の「山力」でつくる、これからの家

早戸温泉つるの湯の隣りに、木造モデルハウス「つるのI・O・R・I」があります。佐久間建設工業(株)を代表企業とするI・O・R・I倶楽部が建築したもので、地場木材を使用し、木組みの在来工法と「板倉づくり」による住宅モデルです。

監修した金親丈史さん（喜多方市）は「一般の住宅産業としては大手企業に勝てません。わたしたちは売るのは『山力』です。家づくりの背景にある物語を伝えることで」と想いを込めます。地元の木材を使うことが森林を守ることにつながり、山の自然を守ることへの理解につながる。そんな家づくりと環境保全を目指すものです。佐久間建設工業(株)常務取締役の佐久間秀夫さんも「先代が残してくれた木を生かし、建築だけでなく家具や燃料まで、生活を豊かにするものを提案したいです」と目標を掲げています。

木組みの在来工法や板倉づくりの良さは、地元の杉材で、地元の職人がすべて料理できることです。それが雇用にもつながります。金親さんは「実はこの地域によく見られる工法なんです」と説明します。

「板を横に並べる工法を『落
とし板倉』といいます。断熱
性に優れ、木組みの在来工法
は地震の際も揺れの力を逃が
し、たわんでも元に戻る特徴
があります」

「つるのIORI」が完成したのは2011年3月。内覧会は3月12日の予定でしたが、その前日に東日本大震災が起きました。そして7月29日には豪雨災害が発生。ぎりぎりのところで浸水を逃れました。震災後、同倶楽部は96棟206戸の木造仮設住宅を、いわき市などに建設しました。木に囲まれた仮設住宅は好評で、今後の復興住宅整備に向けた木材利用を提案するものもあります。

IORI倶楽部が目指すのは、若い人たちがこれから建てたいと思うような家をつくることです。金親さんは「伝統的な工法による木造だというだけでなく、センスの良さが大切」と強調します。

「多くの声を取り入れた住まいを提案したいです。三島町には工人まつりなどの開催により、さまざまな分野のデザイナーが訪れます。それらの皆さんから生活を豊かにしてくれるセンスを取り入れ、家づくりに生かしたいと思っています」

また佐久間さんは「素材は地元にある。それを生かした仕事をつくること」と、あくまで地元にこだわります。

「林業から空間デザインまで、若い人が積極的にかかわって感性を発揮してほしいです。また豪雪に対応した住環境づくりや、自然エネルギーの利用も考えていきたいと思っています」

地元発の 家づくり

IORI 倶楽部の取り組み

地元産の木材を使い、山を再生する。
在来工法を生かし、職人の技を受け継ぐ。
暮らしを豊かにするセンスを組み合わせ、
次世代の家づくりが始まっています。



単身者用住宅が足りない

結露がひどい

日当たりが悪い

すべて和室

家賃の問題

会話のできる場所を

老朽化がひどい

雪の処理の工夫を

子どもが大きくなると狭い

子どもが安全な場所に

地域の目が届くように

集落での共同作業も大事

つかず離れずというか

除雪が心配

ライフステージに合わせて

観光交流館からんころんで行われた「住まいについて語る集い」。町営住宅の現状や、今後の住宅整備について自由に話し合った

町営住宅の現状と主な検討事項

需要・苦情	現 状	検討事項
町 営 住 宅 に 住 み たい。	現在入居募集を行っている住宅は 34 戸となっている。	町営住宅の建設について ①単身者用住宅、世帯用住宅の需要や建設方法
町営住宅が狭い。 (世帯者)	子どもが大きくなり住宅が狭い。(4 人以上の家族構成で 3DK に 7 世帯、3K に 1 世帯が入居)	
単 身 用 住 宅 に 住 み たい。(単身者)	3DK の間取りは単身者には広い。(単身者 7 人が入居)	
一 戸 建 て に 住 み たい。	一戸建て住宅はなく、中間所得者向けの住宅としては宮下居平住宅の 1 棟 2 世帯だけである。	②集合住宅、戸建住宅の需要や建設方法 ③建設用地の選定 (単独・団地・建て替え)
家を建てたい。	宅地分譲地がなく民間参入も見込めないため、対個人による土地取得に限られる。	宅地造成について ①宅地の需要 ②用地の選定
町 営 住 宅 が 老 朽 化 し、住 環 境 が 悪い。	非水洗、雪処理の困難、湿気などの問題があるが、入居者の状況により改築には課題が多い。	



三島町住環境整備検討委員会

所属等	氏 名	役 職
議会	小 柴 正 洋	委員長
振興計画審議会	菅 家 政 義	
教育委員会	坂 内 洋 二	
民生児童委員協議会	横 田 源 一	
商工会	布 施 慶 久	副委員長
建築士会	栗 城 佐	
町民	五十嵐 乃里枝	町営住宅建設部会長
町民	秦 千代栄	高齢者住宅建設部会長
役場総務課長	渡 部 繁 信	
産業建設課長	秦 和 幸	
町民課長	小 堀 庄太郎	
地域政策課長	渡 辺 春 吉	

誰に住宅が必要か？

三島に移り住む人

三島に戻りたい人

家を建てる財力がない人

定住する人

同居できない人

町内に勤務する人

三島に住んで、ほかに通う人

新婚の人

就職した若者

一人暮らしが大変なお年寄り

あらゆる世代が入れる住宅

平成23年4月からの10年間の計画を策定した第4次三島町振興計画。その基本テーマは「住みたい、住み続けたいふるさと」です。わたしたちが住みたいと思う、未来の三島町の住まいはどんなものか。まずは自由に語り合うことから、検討を始めています。

誰のために どんな住まいに

町営住宅等の整備に向け 検討委員会を設置

町では10月1日に住環境整備検討委員会を設置し、町営住宅等の整備検討に入りました。今年度末までに大枠の方針を決める予定です。検討委員会には三つの部会を設置しました。①町営住宅建設部会は、子育て世代や独身などの若者向け住宅を検討します。②高齢者住宅建設部会は、高齢者が安全で快適な生活を維持できる住宅を検討します。③空き家活用部会は、空き家の活用による住宅整備やコミュニティの維持について検討します。事務局は産業建設課に置きます。

住宅事情を踏まえ 町の声を住まいづくりに

町営住宅建設部会では11月28日、「住まいについて語る集い」を観光交流館からんころんで開き、住宅環境について話し合いました。部会長に就いた五十嵐乃里枝さん(大谷)は「世代が違っても住みやすい形とはどんなものか、

皆さんと一緒に考えていきたいと思います」と話し、一般の方の参加を促しました。

集いでは、町営住宅について「結露がひどく、カビが生えやすい」「単身者用住宅が少ない」「子どもが大きくなり、狭く感じる」などの悩みや意見が出されました。またこれからの住宅整備については、「子どもが安全な場所に」「雪の処理を工夫した住宅を」「入居者が交流できる共有スペースを」「畑がある住宅」など、さまざまな希望や意見がありました。

秦和幸産業建設課長は「まずは『こういう住宅に住みたいな』という意見を集めたいと思います。今までの住宅様式にとられずに、これらの住宅を自由に考えるところから始めましょう」と多くの参加を呼び掛けています。

町営住宅建設部会は今後もし話し合いの場を多く設け、具体的な住宅整備案へとつなげていきます。また高齢者住宅建設部会、空き家活用部会については、今後の進め方を検討中です。

●産業建設課 ☎(48) 5566



1 地区総出でおもてなし 大石田のオーナー制事業 盛大に収穫祭 来年の再会を約束



渡部肇さん（右）がユーモアあふれる「そば口上」を披露して会場を沸かせた。収穫祭にはオーナーのほか、会津大学短期大学部の学生や、先進地の柳津町久保田の皆さんも参加。大石田地区からは約30人が参加して交流を楽しんだ。



宮下で収穫された新そばと、手作り豆腐を味わった収穫祭

2 宮下産、石臼挽き新そばを味わう 宮下そばと豆腐の会収穫祭

宮下そばと豆腐の会収穫祭は11月28日、宮下活性化センターで行われ、宮下地区の皆さんなど約20人が新そばを味わいました。そばは景観づくりも兼ねて、同地区の休耕地を利用して栽培されました。そば粉は、町そば加工施設の電動石臼製粉機を使って丁寧に製粉されました。また手作り豆腐も振る舞われ、地元の味を満喫しました。同会は観光交流館からころんど月2回ほど、そばと豆腐を出しています。



田舎暮らし体験ツアーに参加した皆さん

3 味噌づくりで楽しく田舎体験 今年3回目の町観光協会主催ツアー

町観光協会主催の田舎暮らし体験ツアーは11月23日・24日に行われ、1回目の田植え・山菜採り、2回目の稲刈りに続き、3回目は味噌づくりを行いました。県内や首都圏から10人が参加。西方カタクリの会の皆さんが作り方を教えました。味噌のほか、きな粉団子や、こづゆ作り、そば打ちなども行い、参加者からは「大みそかと正月と一緒に来たようで、家族になれたような二日間でした」という感想が聞かれました。

大石田地区で春から行われてきた「そば・じゃがいもオーナー制事業」。同地区の福一満そばクラブが主催し、オーナーには会津若松市や首都圏などから12組が参加しました。5月から11月まで全5回のプログラムで、そば・じゃがいもの栽培、山菜採り、虫送り行事、そば打ちなどを体験。山村での交流を深めてきました。

最後のプログラムの収穫祭は11月11日、大石田生活改善センターで行われ、そば打ち、もちつきを行った後、交流会を開きました。オーナーの皆さんは、種まき、収穫、そば打ちと体験してきた格別のそばを味わいました。そのほか、もち、こづゆ、わらび、イカ人参など地元の味が並びました。また地区の皆さんによる大正琴の演奏や、昔語り、大黒様の仮装踊りなどが楽しく繰り広げられました。最後に全員が輪になって太鼓と甚句に合わせて踊り、収穫祭を締めくくりました。

オーナーの皆さんからは「会津のそばは本当においしいです。来年も参加し、同じ皆さんにまた会えることを楽しみにしています」とうれい声が聞かれました。



東天紅上野店で行われた首都圏三島会総会

5 支え合いのお弁当 今年も届ける 宮下の女性ボランティア「ひまわり会」

宮下地区の女性ボランティア「ひまわり会」は11月30日、同地区の81歳以上の方々にお弁当を作り、自宅まで届けました。町社会福祉協議会の助成で毎年実施しています。同会は平成2年の結成から毎年、高齢者の楽しみになるようにと、お弁当の配達を続けてきました。お弁当には、メンバーの皆さんが持ち寄った食材で作る色とりどりのおかずと、支え合いの「真心」が詰められています。



お弁当を高齢者に届けた「ひまわり会」の皆さん



映画館のようにポップコーンも販売された上映会

6 「天地明察」山びこで上映 ポップコーンも販売

映画「天地明察」上映会は11月17日、交流センター山びこで開かれ、170人が来場しました。800年続いてきた暦を改めた江戸時代初期の実話。囲碁棋士・安井算哲（岡田准一）は、改暦に反対する朝廷を相手に、命をかけて日食を言い当て、正しい暦をつくりました。算哲を支えた妻・えん（宮崎あおい）や、改暦を命じた会津藩主・保科正之（松本幸四郎）も登場しました。上映は栄楽座の協力。チケットは割安で販売されました。

7 木の家づくりで森林再生を目指す IORI倶楽部「板倉づくり」勉強会

木造建築に取り組むIORI倶楽部主催による、杉板倉の住宅見学会と勉強会は11月20日に行われ、約20人が参加しました。「板倉の家づくり」を提唱する筑波大学の安藤邦廣教授の講話を聞きながら、住宅建築の現場を見学。その後、町民センターで勉強会を行いました。安藤教授は「山間部には板倉が多く残っています。山の暮らしと板倉はセットなのです」と話し、奥会津の森林を活用した家づくりを提案しました。



安藤邦廣教授が講話した「板倉づくり」の勉強会

ズームイン6 町民記者の地元密着通信



1 輪投げと昼食会で楽しいひと時

文・写真 町民記者 若林幸代さん（滝谷）



輪投げの後、昼食会を楽しんだ滝谷地区の皆さん

滝谷和楽塾は11月20日、滝谷集会所で行われ、約20人が参加して輪投げと昼食会を楽しみました。輪投げでは前回、大竹順子さんがパーフェクトを達成したので、ほかの皆さんも負けじと精神統一して投げました。簡単に見えてもなかなか難しく、わたしも夢中になり、写真を撮るのを忘れてしまいました。結果は目黒政栄さんが優勝、大竹順子さんが準優勝でした。その後、昼食会を盛大に行い、楽しいひと時を過ごしました。

2 輪投げで交流 お互い元気をもらおう

文・写真 町民記者 菅家敏一さん（高清水）



輪投げを楽しんだ高清水・小山地区の皆さん

高清水・小山健康を守る会と老人会の共催による輪投げ大会は11月24日、高清水集会所で行われました。両地区の皆さん25人が参加し、ゲームを通して楽しい時間を過ごし、会話も弾みました。高齢化が進み、普段は家から出ることが少なくなりがちですが、みんなで集まることでお互いの元気な姿を見て、さらに元気をもらえる場になりました。これから厳しい冬を迎えますが、次回も健康で元気に集まれることを楽しみに散会しました。

3 学生も参加 早戸の虫供養

文・写真 町民記者 五十嵐信一さん（早戸）



福島大学の学生も参加した早戸の虫供養

早戸地区で11月10日、古くから伝わる行事「虫供養」が行われました。午後1時、早戸生活改善センターを出発し、先月新しく建立されたばかりの虫供養塔へ向かいました。佐久間弥一さんが鐘をたたきながら先頭を歩きました。早戸の方々だけでなく、遠くから訪れた方や、福島大学の佐々木康文准教授と学生の皆さんも参列しました。虫供養塔では一人一人が手を合わせ、虫の魂に祈りを捧げました。早戸の方々は「無事に終わることができてよかった」と安心していました。

4 世帯を訪問し、防犯を呼び掛け

文・写真 町民記者 小島 純さん（宮下）



世帯を訪問して行われた防犯診断

防犯診断は10月20日に行われ、町防犯指導隊（小松正信隊長）、会津坂下警察署三島駐在所（松本哲巡查長）、役場担当者が、宮下地区の一般世帯8軒を訪問して回りました。診断では防犯チェック表に基づいて状況を確認し、戸締まりや外出時の隣近所への声掛けなど、防犯の注意を促しました。

町内では一人暮らし、二人暮らしの高齢者世帯が増えており、隣近所での声掛けや気遣いが、安全・安心な暮らしの助けとなります。

5 秋が深まる宮下の小径を歩く

文・写真 町民記者 小島 純さん（宮下）



秋晴れのもと宮下の町なかを巡り歩いた健康ウォーク

宮下地区で10月27日、第14回健康ウォークが行われ、約40人が参加しました。全員で準備体操をした後、宮下活性化センターを午前9時にスタート。「田中の小径」や「花樹のみち」、「お宮みち」などの道しるべを目印に巡り、秋が深まる小径の風景を楽しみながら歩きました。これらの道しるべは、同地区が町並み景観づくりの一環で設置したものです。その後、参加した皆さんは宮下活性化センターに戻り、バーベキューで懇親会を行って親睦を深めました。

6 「かぐや姫」 町並みを彩る

文・写真 町民記者 小島 純さん（宮下）



3本の竹筒で作ったプランターにパンジーを植えた「かぐや姫」

宮下地区で11月4日、各戸の玄関先に置いている竹筒プランター「かぐや姫」の入れ替えが行われ、地区の皆さん約30人が作業に当たりました。各戸から竹筒を回収し、寒さに強いパンジーを移植。再び各戸に届け、玄関先を飾りました。

この取り組みは同地区の町並み景観づくりの一環で実施されているもので、地区の皆さんが協力し、暮らしに彩りを添えています。

保健・子育て・健康づくり

☎ 町民課 ☎ (48) 5565



schedule

● 4カ月児健診

12月11日(火) 11:15～ 坂下厚生総合病院
1月8日(火) 11:15～ 坂下厚生総合病院

● 3歳児健診

1月16日(火) 13:00～ 柳津町・銀山荘

● 乳幼児健診

2月26日(火) 13:10～ 町民センター
《対象》乳児、1歳6カ月児、2歳児

● 足腰げんき教室

▶ 室内運動編

12月11日(火) 13:30～ 町民センター
1月8日(火) 13:30～ 町民センター

▶ 水中運動編

12月20日(火) 13:00 町民センター集合
(河東学園プールへ送迎)
1月23日(火) 13:00 町民センター集合
(河東学園プールへ送迎)

● 機能訓練会

12月12日(水) 14:00～ 福寿草
1月9日(水) 14:00～ 福寿草

● 心の健康相談 (※事前申し込み必要)

12月17日(水) 13:30～ 福寿草
1月7日(水) 13:30～ 福寿草
《申込先》町民課 ☎ (48) 5565



県立宮下病院から

病棟看護師のつぶやき

木村 幸子 看護師



毎日、寒い日が続きますがいかがお過ごしですか。これから、インフルエンザが流行する季節になります。皆さんは、どんな対策をとっていますか。今回は、インフルエンザ対策についてつぶやいてみたいと思います。

*うがいのインフルエンザ効果

インフルエンザウィルスは気道の粘膜に取りつくと数分～20分で細胞の中に入り込んでしまいます。例えば、カップラーメンにお湯を入れて食べ終わる頃には、すっかりウィルスがおじゃましていることとなります。恐るべしインフルエンザ！そして、ウィルスは鼻の粘膜から高頻度に検出されるので、うがい自体に効果はあっても鼻粘膜はうがいで洗うことはできないので、インフルエンザに対するうがいの効果は限られます。

*マスク

咳で約10万個、くしゃみで約200万個のウィルスを含んだばい菌が1回の咳やくしゃみで、約2～3m先まで飛んでいきます。マスクで完全に抑えることはできませんが、ウィルスの侵入を約3割減らすといわれています。

*加湿

インフルエンザウィルスなどは湿度に弱い性質があります。部屋の湿度を上げるために加湿器を使ったり、洗濯物を部屋干ししてみるのも効果的です。

以上、いろいろつぶやいてみましたが、いかがでしたか。最後に、強いストレスも免疫力を低下させるため、上手にストレスを発散することも忘れないでください。



1



2

1_生涯学習表彰を受ける菅家悠那さん(小2・中平)。第48回全国児童才能開発コンクール(図画部門)で財団奨励賞を受賞した

2_合唱を披露した三島中生徒の皆さん。混声で「ファイト」「このみち」、男声で「いざたて戦人よ」「鯉のぼり」、女声で「わたしと小鳥とすずと」を歌った

3,4_会津みしま自然エネルギー研究会が、ペットボトルを使った風力発電機の工作コーナーを設け、子どもたちが体験した

5,6_役場前では消火器体験のほか、白バイやパトカーの体験乗車も行われた



3



4



5



6

続いて三島中生徒による合唱や、一般参加者による演芸会が行われ、日ごろの練習の成果を披露しました。
会場には、書、絵画、写真、生け花など町民の皆さんの作品が多数展示されました。また食堂も運営されたほか、役場前では白菜や大根などの農産物や、揚げたてのコロッケ、いわき市四倉からのホタテ焼きなどが販売されました。

三島町文化祭は文化の日の11月3日、町民センターで開催されました。
生涯学習表彰では、第48回全国児童才能開発コンクール(図画部門)で財団奨励賞を受賞した菅家悠那さん(小2・中平)、第42回世界児童画展で入選した小柴ひなのさん(小5・西方)、第56回県書きぞめ展で奨励賞を受賞した坂内遥人くん(小5・宮下)を表彰しました。また社会を明るくする運動標語コンクール、交通安全運動標語コンクールで特選に選ばれた児童生徒を表彰しました。

三島町文化祭

学ぶ、楽しむ、文化の日



文・写真 町民記者 菅家敏一さん（高清水）

キンさん、トメさん 二人合わせて 200 歳



102 歳の小柴キンさん（左）と 98 歳の横田トメさん（右）

高清水地区には、年齢を合わせると 200 歳の元気なお二人がいます。三島町の最高齢、満 102 歳の小柴キンさん（明治 43 年生まれ）と、満 98 歳の横田トメさん（大正 3 年生まれ）です。受け答えもはっきりしており、新聞も読めるそうです。元気のもとは何かと尋ねると「やる気」「人を愛すること」「食欲」「笑うこと」、そして「多少の色気」だそうです。でも一番大事なのは「感謝の心」をいつも持つことと教えてくれました。いついつまでも美しくお元気で。

町民センター図書コーナー ゆめぽけっとにクリスマスツリー



子どもたちが折り紙でサンタクロースを作り、クリスマスツリーに飾りました。ツリーの杉の木は五十嵐富一さん（大谷）が提供していただきました。

文・写真 卓球クラブ 菅家寿一さん（間方）

思いやりのピンポン楽しむ 第 1 回桐の里じねーんとラリーピンポン大会



2 回の合計で 359 回を記録した渡部政司さんと佐藤美智子さん

三島町卓球クラブ主催の第 1 回桐の里じねーんとラリーピンポン大会は 11 月 18 日、町民センターで開催されました。「じねーんと」とは「急がないで、ゆっくり」という意味です。相手を負かそうとするのではなく、相手を思いやるピンポンでラリーを続け、その回数を競いました。

大会には 10 組が出場し、和気あいあいと歓声を上げながら楽しみました。渡部政司さん（荒屋敷）・佐藤美智子さん（宮下）の組が、1 回目 74 回、2 回目はなんと 285 回、合計 359 回の最高記録を出しました。終了後、参加者全員に記録証が手渡されました。



和気あいあいとラリーを楽しんだピンポン大会

三島町卓球クラブ

- ◎練習 毎週水曜日、午後 7 時から 9 時まで
- ◎場所 町民センター大ホール
- ※誰でも参加できますのでお気軽においでください。



剣道に励む三島剣友会の剣士たち



「めーん、めーん」子どもたちの氣勢の音が体育館に響きます。冷たくても裸足、背筋はピンと張り、たくましく凛々しい少年少女剣士たちです。三島剣友会は、毎週月曜日と木曜日、午後 7 時から 8 時半まで、三島小体育館で練習しています。栗城佐さん（宮下）、細堀高正さん（宮下）、三島駐在所の元巡査部長の鈴木孝二さん（会津若松市）が指導しています。会員は現在、小学 1 年生から 6 年生までの 15 人です。11 月 18 日に開催された第 21 回金山町妖精の里剣道大会では、団体 1 部と 2 部で 3 位、個人で青木亜衣さん（西方）、齋藤さとみさん（宮下）がともに 3 位入賞しました。三島剣友会では小学生と大人の方の会員を募集しています。練習日に見学に来てください。

心身を鍛え、健やかに成長 ◆会員募集中◆

クローズアップクラブ No5

三島剣友会

民話

第 21 話

大黒様の話

十二月の九日に大黒様が旅に出た。そして、大黒様は神様みたいな人だから、あっちこっちで御馳走をいただくからなあ。腹やけとか胸が熱くなったりして、胃が悪くなっただべえ。ある村の道下の川端で、大根洗いしてた女子のいただ。そんじえ、「胸焼けして困ってたか。その大根一本くんにあがえ」ちゅつたら、「うちのご主人はとても厳しい人で、この山のような大根も何本、何本って数えてらつから、ほかさ分けることできねえがらあ」って言うもんだから、大黒様は、「そつかそつか。悪い悪い。そんな厳しいご主人様では、後であなたが難儀するもんなあ」優しくそう言わって、川端離れた

ど。したらば、その女子の人は山の大根また洗いだしたべえ。したらばちやうど股がり大根で二本くつついてるがなき手かけたど。「大黒様、大黒様。ほれほれこの大根の片っぽうだったたら、厳しい旦那様も怒んねえべがらなあ。これ半分おだつから、これでも良かったらなっし」って分けてくつちやど。「ありがとうなあ。この股がり大根で助かったぞ。そなたの思いは忘れまいぞ。これからは良い暮らしができるぞ」肩を優しくたたいてくれらつてなあ。大黒様また出掛けらつたど。ほんに女子の人は、それからちゅうものは良い暮らしになつて、一生安楽に暮らしつたど。そんじえ、十二月の九日には神棚き股がり大根供えて、あつたかいご飯上げ申すようになったわ。「十二月九日は、股がり大根忘れんなよ」なんて言われ言われしたなあ。ざつと昔、榮え申した。掲載協力者 杉本ミツイさん（松原）

これからの予定	
12月13日 ㊟ ・14日 ㊿ 町議会定例会	
12月16日 ㊿ 衆議院議員総選挙投票日	
12月19日 ㊟ 第41回雪と火のまつり実行委員会 14:00～ 町民センター	
12月20日 ㊟ 町振興計画審議会 13:30～ 町民センター	
12月25日 ㊟ 町補助金制度審議会 13:30～ 町民センター	

1月4日 ㊿ 名刺交換会・自治功労表彰式 10:00～ 町民センター
1月6日 ㊿ 消防出初め式 10:00～

食品の放射能測定結果（抜粋）					
品名	検査日	採取場所	放射性物質（ベクレル／kg）		
			ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137
玄米	11月9日	西方	不検出	不検出	不検出
里いも	11月2日	大谷	不検出	不検出	不検出
	11月6日	大石田	不検出	不検出	不検出
大豆	11月9日	名入	不検出	不検出	不検出
かりん	11月13日	大登	不検出	不検出	不検出
キャベツ	11月8日	大石田	不検出	不検出	不検出
白菜	11月2日	大谷	不検出	不検出	不検出
大根	11月2日	大谷	不検出	不検出	不検出
なめこ	11月1日	間方	不検出	31	54
	11月1日	滝谷	不検出	ND	ND
	11月2日	川井	不検出	不検出	不検出
	11月5日	大石田	不検出	20	34
	11月6日	西方	不検出	不検出	41
	11月8日	美坂高原	不検出	ND	ND
	11月9日	大谷	不検出	不検出	30
ぶなはりたけ	11月12日	間方	不検出	37	62
	11月12日	大谷	不検出	21	36
おおいちょうたけ	11月8日	大石田	不検出	81	132
くりたけ	11月1日	間方	不検出	31	57
	11月5日	間方	不検出	42	66
もたし	11月1日	間方	不検出	92	149
むきたけ	11月8日	西方	不検出	不検出	不検出
大葉	11月2日	宮下	不検出	不検出	不検出
チンゲン菜	11月5日	川井	不検出	不検出	不検出
食用菊	11月1日	桧原	不検出	不検出	不検出
えごま	11月5日	浅岐	不検出	不検出	不検出

※ ND は検出下限値（20 ベクレル／kg）以下を示します。

☎役場 地域政策課 ☎（48） 5533
放射能検査室 ☎（52） 3511

地域ふれあいサロン	
川井友愛サロン 12月11日 ㊟ 10:00～ 川井集会所	
大石田友遊サロン 12月20日 ㊟ 13:30～ 大石田生活改善センター	
心配ごと相談	
12月13日 ㊟ 9:30～ 福寿草	
☎町社会福祉協議会 ☎（52） 3344	

ストーブの 取り扱いに 注意しましょう



●乾燥機代わりにしたために
洗濯物が乾きにくいこの季節。つい、ストーブの真上や近くで洗濯物を乾かしてしまいがち。乾いてくると、軽くなった洗濯物がストーブに落ちて火災に。

ストーブの近くで洗濯物を乾かさない！

●タンクの灯油がこぼれて…
ストーブを使っている途中に、灯油が切れた。そこで、点火したまま、タンクを抜いて給油した。セッしようとしてタンクをひっくり返したら、ふたがはずれ灯油がストーブにこぼれて…。

給油するときは、必ずストーブを消すこと。 給油した後、タンクのふたをきちんと閉めたか確認すること！

●スプレー缶が爆発！
スプレー缶をストーブの近くに置きっぱなしにしたため、暖められて中のガスが膨張し、爆発して火災に。

スプレー缶をストーブのそばに置いたり、近くで使用してはいけません！

☎会津坂下消防署三島出張所 ☎（52） 3032

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町での刑法犯（10月）
1件

**振り込め詐欺
明日は我が身かも**
10月下旬、喜多方市内の一般世帯に、息子を名乗る男から「風邪で声が変った。携帯電話の番号が変わった」との電話があり、その後同じ息子を名乗る男から「儲け話に手を出して大変なことになった。150万円振り込んでもらいたい。銀行員に怪しまれないようリフォーム代と話して預金を下ろして」と電話があり、それを信用して指定された口座に150万円を振り込んでしまった被害がありました。

振り込め詐欺を疑うキーワード
①息子や孫など「**身内の名前**」を名乗ってくる
②声、電話番号が「**変った**」
③仕事、借金、投資、異性関係などで失敗し「**お金が必要だ**」
④指定した口座に「**振り込んでくれ**」
※怪しい電話なら、ご家族に電話をかけ直して確認できるまで、絶対に振り込まないでください。

街頭犯罪発生状況（1月～10月）		
区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	1	
忍び込み	2	
事務所荒らし	1	
出店荒らし	1	
自動車盗		
オートバイ盗		
自転車盗	16	
自販機ねらい	2	
車上ねらい	3	
部品ねらい		
強制わいせつ	1	
街頭犯罪合計	27	0
全 刑 法 犯	113	6

※全刑法犯には街頭犯罪以外（器物損壊、暴行、傷害、万引き、詐欺など）の犯罪発生件数が含まれます。

原子力災害 県民健康管理調査問診票 ご回答のお願い

県では、原子力災害による放射線の影響を踏まえ、県民の皆さまの健康を長期にわたり見守っていきます。その出発点として、県民健康管理調査基本調査問診票をご提出いただいた皆さまには、外部被ばく線量をお伝えしております。現時点で推計結果の通知が届いていない方には、現在急ピッチで作業を進めておりますので、もう少々お待ちください。
まだ問診票を提出されていない皆さまは、平成23年3月11日から7月11日までのご自身の外部被ばく線量を確認いただくために、問診票にご記入いただき提出をお願いいたします。

問診票の書き方 出前説明会・相談会

県と県立医科大学では、県民健康管理調査基本調査問診票に関する出前書き方説明会・相談会を、皆さまのご要望に応じて開催します。
開催日時は土・日・祝日を除く午前9時から午後4時までの間で、1回当たり10～15名までの相談が可能です。詳しくは県立医科大学県民健康管理センターまでお問い合わせください。
☎県立医科大学
県民健康管理センター
☎024（547）1786

あなたの健康、見守ります。 **検索**



県民健康管理調査
基本調査問診票

12月の納税	
納期限 12月25日	
▶固定資産税 第3期	
▶国民健康保険税 第5期	
▶介護保険料 （普通徴収）第5期	
▶後期高齢者医療保険料 （普通徴収）第5期	
忘れずにお納めください。 役場 町民課	

ご寄附 ありがとうございました	
町社会福祉協議会へ ご遺志によるもの	
栗 城 正 紀 様（間方）	
青 木 倉 一 様（西方）	
諏 訪 義 幸 様（宮下）	

町の人口と世帯 11月1日現在				
人口	1,905	-6	出生	0
男	912	-2	死亡	6
女	993	-4	転入	4
世帯	835	±0	転出	4
※住民基本台帳による数値です。				



紅葉に染まる風景を眺めながら、早戸から三更への早三橋を渡っていく参加者の皆さん



1_ウォーキングを先導し、見どころを案内した星賢孝さん 2_歴史を物語る三更の古民家で休憩した
3_道端のお地藏様がやさしく見守る

神々の道と霧幻峡ウォーキングは、紅葉が見ごろとなった11月4日、早戸地区と対岸の金山町雨沼地区を巡るコースで開催されました。あいづ歩こう会の主催、早戸地区、雨沼地区、早戸温泉つるの湯企業組合の共催で、昨年夏に続き二回目。町内外から約200人が参加しました。会津若松市で避難生活を送る大熊町の皆さん約80人も参加しました。

午前10時に、つるの湯前からスタート。只見川と紅葉の絶景ポイントや、点在する道祖神、古民家での休憩など、魅力あふれる約8kmのコースを2時間半ほどかけて歩きました。星賢孝さん（雨沼）が先導しながら見どころを案内したほか、地元の方がスタッフとして協力しました。参加者には、つるの湯の入湯券を配布したほか、完歩賞として早戸の風景のフォトカードをプレゼントし、きのこ汁も振る舞いました。

早戸地区には約30カ所に祠や石仏、道祖神などが点在しています。夜泣き地蔵、稲荷様、愛宕様、不動明、お伊勢様、金毘羅様、山の神様、水神様など、さまざまな神々が祭られ、信仰の歴史が色濃く残る地域です。同地区ではこれらの神々を巡る道を、平成21年度から23年度にかけて整備し、今回のウォーキングルートにもなりました。

昨年夏、第1回ウォーキング大会の後に豪雨災害が発生し、只見川沿岸部の遊歩道に土砂が堆積してしまいました。早戸地区では今年度、樹木を植栽して沿岸部の緑化を行い、美しい景観に戻そうと取り組んでいます。

一歩一歩
地区
づくり
File6

早戸地区

絶景の峡谷を歩く

神々の道と霧幻峡ウォーキング



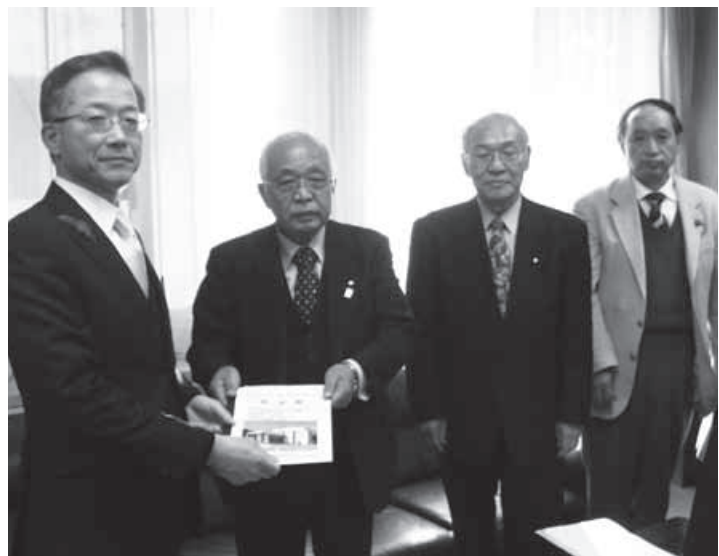
丹羽真一病院事業管理者（右）に要望書を手渡す会長の二瓶隆司町長と後援会の皆さん



県庁を訪問し、宮下病院についての要望を行った皆さん

県側からは「宮下病院は奥会津地域の医療を担う重要な病院として位置付けております」と心強い言葉がありました。施設の耐震化については現在検討されています。

要望活動に参加した皆さんは「へき地における宮下病院の役割の重要性に対する意識の共有が図れました」と話していました。



村田文雄副知事（左）に要望書を手渡す会長の二瓶隆司町長と、同席した副会長の小柴修一議長、広報部長の五十嵐健二副議長

県立宮下病院等後援会 診療充実や耐震化などを県へ要望

2012.11.28

衆議院議員総選挙 最高裁判所裁判官国民審査 12月16日①日 棄権しないで 投票しましょう。

◆投票時間 午前7時から午後6時まで
※お届けした入場券をご持参ください。紛失した場合でも、選挙人名簿に登録されていれば投票できますので、受付に申し出てください。

【期日前投票】 12月5日②から12月15日③日まで

場所 町民センター

時間 午前8時30分から午後8時まで

問 三島町選挙管理委員会（総務課内） ☎（48）5511



三島中男子バレーボール部

県大会3位の快挙

一月のプリンスカップ（東北大会）の出場権獲得
過去最高成績の東北ベスト8以上を目標に挑む



三島中男子バレーボール部の生徒たち

五十嵐忠馬くん（2年・大石田）、鈴木 大輔くん（2年・宮 下）、角田 雄大くん（2年・川 井）
中丸 拓くん（2年・宮 下）、二瓶 北都くん（2年・西 方）、渡辺 颯人くん（2年・大石田）
阿部 翔兵くん（1年・滝 谷）、板橋 瑞樹くん（1年・滝 原）、大竹 昌寿くん（1年・滝 谷）
小平 陸くん（1年・西 方）、羽田 佑真くん（1年・西 方）、坂内 萌人くん（1年・宮 下）

強豪藤間中を破って3位
東北大会への切符を手に

三島中男子バレーボール部は11月10日・11日、いわき市立総合体育館で開催された第34回福島県中学生バレーボール選手権大会に出場し、3位という活躍を見せました。

会津地区予選を1位で通過した三島中は、シード校として二回戦から出場。エース鈴木大輔くんのスパイクや、主将渡辺颯人くんのサーブエースの活躍で点差を開き、北信中（福島市）に勝ちました。続く三

三島中男子の秋季大会成績（セットカウント）
第34回福島県中学生バレーボール選手権大会
会津地区予選 1セットも落とさずに優勝
福島県大会
【二回戦】北信中（福島市）に2対1で勝利
【三回戦】藤間中（いわき市）に2対1で勝利
【準決勝】白河中央中（白河市）に0対2で敗退
《成績》第3位

回戦は藤間中（いわき市）と対戦。伝統ある強豪校を相手にセットカウント2対1で競り勝ちました。準決勝では白河中央中の力が一枚上手でしたが、最後まで健闘しました。

会場には保護者や兄弟など多くの皆さんが訪れ、立ちっぱなしの熱い声援で超小規模校の躍進を後押ししました。

同部は11月14日、今回の成績報告に役場町長室を訪れました。監督の木村仁根教諭が試合展開を説明。続いて主将渡辺颯人くんは「たくさんさんの応援ありがとう



うございました。初めての県大会で雰囲気にもなれそうになりましたが、3位という結果はうれしいです。ミスから連続で得点されたことが反省点です。来年は優勝、そして東北大会に出場したいです」と力を込めました。エース鈴木大輔くんは「初戦は緊張しましたが、二日目からはガンガン打てました。来年は東北大会ベスト8以上を狙います」と目標を掲げました。また五十嵐忠馬くんは「牛乳を飲んでもっと背を伸ばし、力をつけたいです」と成長を誓いました。

三島中は今回の成績により、1月12日・13日に宮城総合体育館で開催されるプリンスカップ（東北大会）に出場する権利を得ました。まだまだ可能性を秘めた2年生と1年生。さらなる飛躍を目指して挑戦が続きます。

全校生徒30人の三島中の常設部は、男女ともバレーボール部だけです。町民の皆さんの温かい応援をお願いします。